

■世界：IEA、パリ協定目標達成には CCS の開発加速が必要

国際エネルギー機関 (IEA: International Energy Agency) は 2016 年 11 月 15 日、COP21・パリ協定で定められた気候変動目標を達成するためには、CO₂ 回収・貯留技術 (CCS) が果たす役割の重要性を強調したレポートを発表した。「CCS の 20 年: 今後の開発を加速 (20 years of CCS: Accelerating Future Deployment)」と題した同レポートは、過去 20 年間の CCS 技術の進捗状況をレビューし、今世紀中に 2°C 以下に世界の気温上昇を抑制するという目標を達成するために CCS が果たす役割について検討されている。IEA 事務局長は「CCS の技術開発の機会を増やす必要がある。CCS は石炭火力発電所からの CO₂ 排出量を大幅に削減できる唯一の手段である。また、鉄鋼などの工業プロセスからの CO₂ 排出量を削減できる数少ない手段の 1 つである」としている。同レポートによると、稼働中の大規模な CCS プロジェクトは 15 件あり、来年以降には 6 件が追加されるとしている。